

第 34 回 CDM 理事会傍聴出席報告

2007 年 9 月 19 日

(2007 年 10 月 2 日一部修正)

社団法人海外環境協力センター

I. 理事会概要

1. 日時： 2007 年 9 月 12 日（水）～9 月 14 日（金）
（公開討議は 13 日、14 日に開催）
2. 場所： UNFCCC 事務局（ドイツ・ボン）
3. 議題：
 1. 理事会メンバーについて
 2. 議題の採択
 3. ワークプラン
 - a) 運営組織の信任手続
 - b) ベースライン・モニタリング計画の方法論
 - c) 小規模 CDM プロジェクトに関する事項
 - d) CDM プロジェクト活動の登録に関する事項
 - e) CER 発行及び CDM 登録簿（レジストリ）に関する事項
 4. CDM 管理計画及び予算に関する事項
 5. その他 ((a)プロジェクトの地域分布、(b) DNA との関係、(c) DOE/AE との関係、(d) 利害関係者・各国・NGO との関係、(e) その他)
 6. 閉会



【運営組織の信任手続】

<ガイダンス事項>

- ・ IDOE に対するスポットチェック結果（3 件のプロジェクト）について検討を行い、品質向上に向けた改善の努力が見られたことを評価し、当該 DOE に対するスポットチェックを終了することに合意した。
- ・ 信任手続の改訂（陳述に関する箇所）の改訂）を承認。
- ・ CDM 審査員（assessor）、DOE/AE 審査員（auditor）の資格に関するガイダンスについて、認定パネル（CDM-AP）に対して、更なる検討を要請した。
- ・ CDM-AP への追加の方法論専門家の任命は次回 EB35 に行うこととなった。

【ベースライン・モニタリング計画の方法論】

<新規方法論>

- ・ 承認（1 件）：
 - **ACM0013 : “Consolidated methodology for new grid connected fossil fuel fired power plants using a less GHG intensive technology”**（スコープ：1（エネルギー産業）<低 GHG 集約型技術を用いた新たなグリッド接続された火力発電所（NM0215（中国）及び NM0217（インド）>

<ガイダンス事項>

- ・ モントリオール議定書下で規制対象となっているガスについて、他の GHG と同様に扱うこ

とが合意された。(バウンダリー内の人為的排出をカウント、リーケージ排出も加味、GWP は IPCC-AR3 データを用いて計算。)

- ・方法論パネル (MP) メンバーの任命
 - Ciska Terblanche 氏 (新規追加メンバー)
 - Luis Alberto de La Torre 氏 (メンバー辞任に伴う新任メンバー)

【小規模 CDM プロジェクトに関する事項】

<SSC 方法論>

- ・理事会は COP/MOP2 の要請に応じ、非再生可能バイオマスから再生可能バイオマスへの転換に関する下記の 2 方法論案を、COP/MOP3 に提出することに合意した。(COP/MOP3 にて採択の是非を含め、取り扱いが検討される。)
 - SSC I.E : “Switch from Non-Renewable Biomass for Thermal Applications by the User” (熱利用における非再生可能バイオマスからの転換)
 - SSC II.G : “Energy Efficiency Measures in Thermal Applications of Non-Renewable Biomass” (非再生可能バイオマスの熱利用における省エネ)
- ・承認済み SSC 方法論、AMS II.E (建物でのエネルギー効率及び燃料転換対策) を用いて、既存及び新規の両設備をモニタリングする際の追加的ガイダンスの検討を SSC WG に要請した。

<ガイダンス事項>

- ・各種様式 (F-CDM-SSC-Subm、F-CDM-SSC-NM、F-CDM-SSC-NMpu、F-CDM-SSC-Nmex 等) の改訂を承認。(2007 年 11 月 1 日より発効)

【CDM プロジェクト活動の登録に関する事項】

<登録申請・レビュー要請案件 (4 桁の数値はプロジェクト参照番号) (ホスト国/投資国) >

- ・登録承認 : 11 件
 - “Chilatan Hydroelectric Project” (0785) (メキシコ)
 - “Jiangsu Qidong 91.5 MW Wind Power Project” (0905) (中国/スペイン)
 - “Partial substitution of fossil fuels with biomass in cement manufacture” (0876) (アルゼンチン/スペイン)
 - “GEEA-SBS Biomass Treatment Project in Alegrete, Rio Grande do Sul, Brazil” (1092) (ブラジル/日本 [三菱 UFJ 証券])
 - “Manasi River Stage I Hydropower Project of Hongshanzui Hydropower Plant, Xinjiang Tianfu Thermoelectric Co.,Ltd.” (1103) (中国/日本 [東京電力])
 - “SSML-Simbhaoli Biomass Power Project” (1112) (インド/英国)
 - “10MW Waste Heat Recovery based Captive Power Project at Vikash Metal and Power Limited” (1149) (インド)
 - “Fuel Switch at BSM sugar mills”(1022) (メキシコ)
 - “Phu Khieo Bio-Energy Cogeneration project (PKBC)”(1024) (タイ)
 - “Central Izalco Cogeneration Project”(1033) (エルサルバドル)
 - “19.27 MW Grid connected wind electricity generation project by KPR Mills in Tamil Nadu”(1042) (インド)
- ・条件付登録承認 : 10 件
 - “Hangyeong second phase SS-wind power Project” (1000) (韓国)
 - “Inversiones Hondurenas Cogeneration Project” (1034) (ホンジュラス)
 - “Yunnan Yingjiang Nandihe Hydro Power Project” (1074) (中国/オランダ)

- “Guangzhou Xingfeng Landfill Gas Recovery and Electricity Generation CDM Project” (1075) (中国／英国)
- “GEEA Biomass 5 MW Power Plant Project” (1089) (ブラジル／日本 [三菱 UFJ 証券])
- “Bandar Baru Seriting Biomass Project” (1091) (マレーシア／英国)
- “Project for the catalytic reduction of N2O emissions with secondary catalyst inside the ammonia oxidation reactors of the NAN1 and NAN2 nitric acid plants at Abonos Colombianos SA (“Abocol”), Colombia” (1119) (コロンビア／ドイツ)
- “Rice husk based cogeneration plant (5 MW) at Shibzada Ajit Singh Nagar District, Punjab by M/s Nahar Industrial Enterprises limited” (1130) (インド)
- “Jiangxi Fengcheng Mining Administration CMM Utilization Project” (1135) (中国／オランダ)
- “7.25 MW wind energy project of Aruppukottai Sri Jayavilas Ltd., Tamilnadu, India” (1137) (インド)
- ・レビュー実施決定：30 件（以下、プロジェクト番号のみ掲載）
 - 0997、1003、1035、1043、1044、1056、1065、1076、1077、1084、1085、1086、1104、1109、1114、1115、1120、1123、1140、1142、1154、1157、1158、1159、1160、1161、1162、1163、1164、1217
- ・登録不承認（レビュー実施の結果）：10 件
 - “Pão de Açúcar – Demand side electricity management – PDD 7”(0988) (ブラジル)
 - “Kunak Bio Energy Project”(1014) (マレーシア)
 - “Pão de Açúcar – Demand side electricity management – PDD 3”(1023) (ブラジル)
 - “Pão de Açúcar – Demand side electricity management – PDD 2”(1030) (ブラジル)
 - “Eliane Natural Gas fuel switch project”(1041) (ブラジル)
 - “Pão de Açúcar – Demand side electricity management – PDD 4”(1050) (ブラジル)
 - “Pão de Açúcar – Demand side electricity management – PDD 1”(1055) (ブラジル)
 - “Pão de Açúcar – Demand side electricity management – PDD 6”(1057) (ブラジル)
 - “Pão de Açúcar – Demand side electricity management – PDD 8”(1058) (ブラジル)
 - “Pão de Açúcar – Demand side electricity management – PDD 5”(1060) (ブラジル)

【CER 発行・CDM 登録簿に関する事項】

< CER 発行要請レビュー（4 桁の数値はプロジェクト参照番号）（ホスト国／投資国） >

- ・発行承認：13 件
 - “Catalytic N2O destruction project in the tail gas of the Nitric Acid Plant of Abu Qir Fertilizer Co.”(0490) (エジプト／オーストリア、ドイツ)
 - “Methane capture and combustion from swine manure treatment for Corneche and Los Guindos”(0031) (チリ／カナダ、日本、英国)
 - “Methane capture and combustion from swine manure treatment for Peralillo”(0032) (チリ／カナダ、日本、英国)
 - “Vaturu and Wainikasou Hydro Projects”(0089) (フィジー／英国)
 - “N2O Emission Reduction in Onsan, Republic of Korea”(0099) (韓国／日本、オランダ、英国、フランス)
 - “Methane Extraction and Fuel Conservation Project at Tamil Nadu Newsprint and Paper Limited (TNPL), Kagathipuram, Karur District, Tamil Nadu”(0124) (インド／オランダ)
 - “Jalles Machado Bagasse Cogeneration Project (JMBCP)”(0187) (ブラジル／オランダ)
 - “Lagas Methane Avoidance Project”(0268) (ブラジル／日本)
 - “LDEO Biomass Steam and Power Plant in Malaysia”(0395) (マレーシア／カナダ)

- “SEO Biomass Steam and Power Plant in Malaysia”(0402) (マレーシア/カナダ)
 - “VGL–Waste Heat based 4 MW Captive Power Project at Raipur”(0432) (インド)
 - “Água Doce Wind Power Generation Project”(0575) (ブラジル)
 - “Central Energética do Rio Pardo Cogeneration Project (CERPA)”(0209) (ブラジル/オランダ)
- ・レビュー実施決定：7件（以下、プロジェクト番号のみ掲載）
- 0033、0045、0112、0288、0458、0858、1037

< CDM 登録簿の現状（2007年8月末現在） >

- ・計 76,068,517 CERs が発行され、その内の 69% (52,686,445 CERs) が附属書 I 国用暫定口座に、28% (21,279,366 CERs) が CDM 理事会用保留口座に、1% (581,341 CERs) が非附属書 I 国用保有口座へ移転された。
- ・ CDM 登録簿の保有口座数 保有口座（非附属書 I 国）：20 口座、暫定口座（附属書 I 国）：78 口座
- ・ CDM 登録簿と国際取引ログ（ITL）との接続に関し、初期化プロセスが 9 月第 3 週目に完了する見込み。10 月中旬にも新しいバージョンの CDM 登録簿の運用が開始される予定。（口座保有者がオンラインでの移転要請や取引明細書の確認等が可能となる。）

【その他】

- ・プロジェクトの地域分布について議論を行い、アフリカ諸国、小島嶼諸国、後発発展途上国でのプロジェクト普及に向けた取り組みについて、引き続き COP/MOP3 へ提出する EB 勧告作成を進めることとなった。
- ・ CDM 関係者に対する情報提供・共有を行う目的で、UNEP RISOE センター及び UNFCCC 事務局によって開発された「CDM バザール (www.cdmbazaar.net)」が一般公開された。
- ・第 3 回 DNA フォーラム（2007 年 10 月 4 日～6 日、エチオピア・アジスアベバ）開催へ向けての準備が進められていることが事務局より報告。
- ・2008 年度の理事会（及び各パネル・ワーキンググループ）開催スケジュールが合意、発表された。
 - EB37：1 月 30 日～2 月 1 日、EB38：3 月 12～14 日、EB39：5 月 12～14 日（SB との共催）、EB40：6 月 14～16 日、EB41：7 月 30 日～8 月 1 日、EB42：9 月 24～26 日、EB43：10 月 22～24 日、EB44：11 月 26～28 日（COP/MOP との共催）（※EB44 を除いて、開催地はボンの予定）
- ・次回 EB35 は 2007 年 10 月 17 日～19 日にボン（事務局）にて開催（公開討議：10/18～19）。

4. 出席者

(網掛部は欠席理事)

出身地域枠		理事 (Member) 【10 名】	代理理事 (Alternate Member) 【10 名】
国連 地域 グループ (5 地域)	アフリカ	Mr. Samuel Adeoye Adejuwon (ナイジェリア/環境省 環境評価局気候変動ユニット部長補佐)	Mr. Kamel Djemouai (アルジェリア/国土整備・環境省 環境協力部 部長補佐)
	アジア	Mr. Rajesh Kumar Sethi (インド/環境森林省 気候変動部部長)	Ms. Liana Bratasida (インドネシア/環境省 地球環境・国際協力担当審議官)
	東欧	Mr. Evgeny Sokolov (ロシア/国家炭素隔離基金事務局次長)	Ms. Natalia Berghi (モルドバ/生態天然資源省 水文気象庁国際課 課長)
	ラテンアメリカ・カリブ海	Ms. Karen Christiana Figueres Olsen (コスタリカ/環境エネルギー省 コスタリカ共同実施オフィス 顧問)	Mr. José Domingos Gonzalez Miguez (ブラジル/科学技術省 省庁間気候変動委員会 事務局長)
	西欧 その他	Ms. Ulrika Raab (スウェーデン/エネルギー庁上級アドバイザー)	Mr. Martin Hession (イギリス/環境・食糧・地域省)
附属書 I 国 (Annex I)		Mr. Hans Jürgen Stehr (デンマーク/エネルギー庁研究開発部部長)	Mr. Lex de Jonge (オランダ/住宅・国土計画・環境省)
		Mr. Akihiro Kuroki (黒木 昭弘 氏) (日本/(財)日本エネルギー経済研究所 研究理事)	Ms. Jeanne-Marie Huddleston (カナダ/外務国際貿易省 気候変動部 上級政策アナリスト)
非附属書 I 国 (Non-Annex I)		Mr. Xuedu Lu (呂 学都 氏) (中国/科学技術部農村社会開発司 部長)	Mr. Richard S. Muyungi (タンザニア/副大統領府環境部 副部長)
		Mr. Hernán Carlino (アルゼンチン/環境・持続的開発庁 気候変動ユニット)	Mr. Philip M. Gwage (ウガンダ/水・土地・環境省長官補佐)
小島嶼国連合 (AOSIS)		Mr. Rawlestone Moore ¹ (バルバドス/気候変動コンサルタント)	空席 (EB32 にて Solafa 氏辞任)

オブザーバー参加 : 10 名

¹ Moore 理事は今回の EB34 をもって、理事を辞任することが発表された。(後任は現時点では未定)

II. 第 34 回 CDM 理事会報告

1. 理事会メンバーについて

- ・ 欠席メンバー（2名）：Figueres 理事（コスタリカ／ラテンアメリカ・カリブ海地域）、Berghi 代理理事（モルドバ／東欧地域）
- ・ Moore 理事（バルバドス／小島嶼国連合（AOSIS））が今回の EB34 をもって辞任することが発表された。後任の発表はなく、現時点では未定となっている。
- ・ Solafa 前代理理事辞任²に伴う新任理事について：小島嶼国連合（AOSIS）からの推薦が届いておらず、後任は未定となっている。

2. 議題の採択

- ・ 特に異論なく採択。
- ・ Stehr 議長の提案により、議題 5.その他(a)「プロジェクトの地域分布」を初めに取り上げ、審議を行うこととなった。³

3. ワークプラン

3. (a) 運営組織（OE）の認定

<認定パネルの報告>

- ・ 第 31 回 CDM 認定パネル（CDM-AP31）が 2007 年 8 月 22 日～24 日に開催され、「CDM 認定パネル第 21 次プロGRESSレポート（CDM-ACCR-R-21）⁴」が、CDM-AP 議長の Carlino 理事より報告された。

<ガイダンス・手続事項>

- ・ DOE1 機関に対する 3 件のプロジェクトのスポットチェック結果について検討を行い、品質向上に向けた改善の努力が見られたことを評価し、当該 DOE に対するスポットチェックを終了するこ

² 前々回 EB32（2007 年 6 月開催）にて辞任。

³ 「プロジェクトの地域分布」に関しては、ここ数回の EB にて取り上げられているが、審議に十分な時間を確保できず、COP/MOP3 へ提出する EB の勧告も作成しなければならないことから、優先的に審議を行うことが、Stehr 議長より説明された。

⁴ レポートでは、2007 年 7 月 15 日～8 月 24 日までの認定パネルに関する動きをカバーしている。（現在、38 社が OE として活動を行っている。）

<OE38 社の地域的内訳>

各地域別	アジア太平洋	西欧その他	ラテンアメリカ・カリブ海	アフリカ	合計
OE 数	18	17	2	1	38 社

<途上国（非附属書 I 国及び経済移行国）の OE 国別内訳>

国別	韓国	中国	マレーシア	コロンビア	ブラジル	南アフリカ	ルーマニア	合計
OE 数	4	2	2	1	1	1	1	12 社

とに合意した。

- ・ 信任手続の改訂（陳述に関する箇所の改訂）を承認。（EB34 報告書 [Annex1](#)）
- ・ CDM 審査員（assessor）、DOE/AE 審査員（auditor）の資格に関するガイダンスについて、認定パネル（CDM-AP）に対して、更なる検討を要請した。
- ・ DOE/AE フォーラムより検証プロセスに関する検討要請に関し、次々回 EB36（11 月）にて検討を行うこととなった。
- ・ 理事会は、承認済み統合化方法論 ACM0006（バイオマス残渣を利用したグリッド接続のための統合化方法論）を用いたプロジェクトの有効化審査中に、承認済み方法論に記載の代替案のみにベースライン代替案が厳格化されている必要はなく、他の現実的かつ信憑性のあるプロジェクト活動に関連する代替案を検討対象とすることを、DOE へ連絡することを決定した。
- ・ 今回の EB34 で予定されていた CDM-AP への追加の方法論専門家の任命は、次回 EB35 に延期することとなった。

<スケジュール>

- ・ 次回第 32 回認定パネル（CDM-AP32）開催日程：2007 年 11 月 7 日～9 日

3. (b) ベースライン・モニタリング計画の方法論

<新規統合化方法論>

- ・ 承認（A 判定）：1 件
 - NM0215：“Huaneng Yuhuan Ultra-supercritical Coal-fired Power Project”、NM0217：“North Karanpura greenfield supercritical coal-fired power project, India” → **ACM0013：“Consolidated methodology for new grid connected fossil fuel fired power plants using a less GHG intensive technology”**（スコープ：1（エネルギー産業））<低 GHG 集約型技術を用いた新たなグリッド接続された火力発電所（中国、インド）>（EB34 報告書 [Annex2](#)）

前回 EB33 に引き続き、本統合化方法論を承認することにより、化石燃料（石炭）発電が途上国で助長することに危惧している一部の理事（Moore 理事他）からは反対の意見が表明され、議論は紛糾した。非公開討議でも結局、結論はまとらず、理事による投票によって、採決することとなった。（投票⁵結果：賛成 8 票、反対 2 票により、承認された。）

尚、ACM0013 採択の是非を巡っては、以下のようなコメントが理事からなされた。

⁵ 投票内容：「方法論パネルより提案された統合方法論案「低 GHG 集約技術を用いた化石燃料発電プロジェクト」を、下記の議長提案とともに採択する。

- ・ 適用条件：発電量の 50%以上を化石燃料に依存しているプロジェクトに適用

- ・ 化石燃料使用プロジェクトの上位 15%の省エネ発電プラントをベンチマークとして設定

EB での投票行動には理事（10 名）が参加することとなっている。但し、理事が不在の場合には、同地域選出の代理理事が投票に参加することとなっており、今回の投票では、欠席の Figueres 理事に代わり、Miguez 代理理事が投票に参加した。

- 排出削減量について、BAU レベルだと思う。BAU で実施可能なものは CDM としては認めないという原則を守るべき。(Moore 理事)
- 本方法論に関して、BAU だという指摘は以前にもなされていたが、BAU レベルよりも効率的であることが証明されている。(Sethi 理事)
- ベースライン自体がクリティカルで高い水準となっているので、BAU には当たらない(黒木理事)
- 本方法論の取り扱いについて、EB から間違っただ信号(石炭火力発電を助長する流れ)が発信されることを懸念している(Carlino 理事)
- 本方法論は今後 30~40 年は技術発展に役立つものと考えており、Carlino 理事の指摘にはあたらなと思う。(Sethi 理事)
- GHG を削減するためにあらゆる手段を講じる必要がある、とのことだが、今回の決定は今後大きな影響を及ぼすことが考えられる。方法論の承認には、幅広く各国・地域での適用を念頭に置く必要があるのでは？(適用条件の見直しを示唆)(Muyungi 代理理事)
- すでに議論は尽くされており、これ以上方法論(適用条件)に手を入れるのはやめるべきである。また、さらに適用条件を狭めることによって特定の国や地域での適用を除外するのは、プロジェクトの偏在化の問題に取り組んでいる観点から好ましくない。(黒木理事)
- 外部とのコミュニケーションを取り、本方法論についての見解について、幅広く意見を聴取すべき(Djemouai 代理理事)
- 気候変動枠組条約や京都議定書の精神に立ち返り、本方法論の取り扱いを決めるべき(Adejuwon 理事)
- 本方法論は条約及び議定書の目的である、GHG 削減に寄与するものであり、だからこそ、今まで時間をかけて我々は議論してきた。(Miguez 代理理事)
- 全会一致によって進めるのが EB の特徴であるが、決定を先延ばしすることはできない。(すでに前回 EB33 等でも審議を行ってきたので。)(Stehr 議長)

(前回 EB33 でも本方法論承認の是非を巡り、議論がなされた(非公開討議での議論が中心であった)。今回 EB34 での議論は大半が公開討議の中で行われ、上記のような活発な意見のやり取りを聴取することができた。初日の議論では終盤にコンセンサスで採択するという流れが見えつつあったが、2 日目(最終日)には、また対立が顕在化し、結果的に EB では異例の投票による採択となった。(議論の流れから、賛成が多数を占めていたが、終始反対の立場をとっていた Moore 理事は反対の意思表示を残すため、投票行動を提案したものと考えられる。(但し、投票は秘密投票で行われるため、投票結果は投票数のみが公表された。))

<ガイダンスに関する事項>

- ・理事会は、方法論パネルからの異なるオプションの提案を検討し、モントリオール議定書下で規制対象となっているガスについて、他の GHG と同様に扱うことが合意された。
 - プロジェクト参加者によるプロジェクト活動に起因する(京都議定書附属書 A に記載(6 ガス⁶)以外の温室効果ガス⁷)のプロジェクトバウンダリー内の人為的排出を含める。
 - (京都議定書附属書 A に記載(6 ガス)以外の温室効果ガスの)リーケージ排出も考慮に入れる。
 - 人為的排出については、IPCC 第 3 次評価報告書(AR3)で合意された地球温暖化係数(GWP)を用いて CO₂ 換算で算定を行う。

⁶ 二酸化炭素(CO₂)、メタン(CH₄)、亜酸化窒素(N₂O)、ハイドロフルオロカーボン(HFCs)、パーフルオロカーボン(PFCs)六フッ化硫黄(SF₆)

⁷ 6 ガス以外の GHG ガスでモントリオール議定書下のガスはハイドロクロフルオロカーボン(HCFC-22、HCFC-123)

- ・方法論パネル（MP）メンバーの任命
 - Ciska Terblanche 氏（新規追加メンバー）⁸
 - Luis Alberto de La Torre 氏（メンバー辞任に伴う交代メンバー）⁹
- ・前回 EB33 にてプログラム活動（PoA）に関するガイダンス、各種様式の採択等を行い、省エネ分野のプロジェクトを進める整備を行ってきたことが事務局より報告され、初の PoA ケースが既に事務局宛に登録申請されており、次回 EB35 にて検討する予定であることも合わせて報告された。
- ・理事会は、「DOE から方法論パネルに対する、承認済み方法論適用に際しての質問提出手続（procedure for the submission and consideration of queries regarding the application of approved methodologies by DOEs to the Meth Panel）」を採択。（2007 年 11 月 1 日より発効）（EB34 報告書 [Annex3](#)）

<スケジュール>

- ・次回第 29 回方法論パネル（MP29）開催日程：2007 年 9 月 24 日～28 日
- ・第 23 回ラウンド新方法論提出締切（MP31 にて審議予定）：2007 年 11 月 19 日

3. (c) 小規模 CDM プロジェクトに関する事項

<SSC 方法論>

- ・理事会は COP/MOP2 の要請に応じ、非再生可能バイオマスから再生可能バイオマスへの転換に関する下記の 2 方法論案を、COP/MOP3 に提出することに合意した。（今年 12 月に開催の COP/MOP3 にて採択の是非を含め、取り扱いが審議される。）
 - SSC I.E. : “Switch from Non-Renewable Biomass for Thermal Applications by the User”（熱利用における非再生可能バイオマスからの転換）（EB34 報告書 [Annex4](#)）
 - SSC II.G. : “Energy Efficiency Measures in Thermal Applications of Non-Renewable Biomass”（非再生可能バイオマスの熱利用における省エネ）（EB34 報告書 [Annex5](#)）
- ・承認済み SSC 方法論、AMS II.E（建物でのエネルギー効率及び燃料転換対策）を用いて、既存及び新規の両設備をモニタリングする際の追加的ガイダンスの検討を SSC WG に要請した。

<ガイダンス事項>

- ・理事会は、下記の手続、ガイドライン、様式の変更を承認した。（2007 年 11 月 1 日より発効）
 - 小規模方法論の明確化手続（EB34 報告書 [Annex6](#)）
 - 小規模方法論の修正手続（EB34 報告書 [Annex7](#)）
 - 新規小規模方法論提案手続（EB34 報告書 [Annex8](#)）
 - 簡素化 PDD 記入ガイドラインの修正（EB34 報告書 [Annex9](#)）
 - 小規模 CDM プロジェクトのバンドル化申請様式（EB34 報告書 [Annex10](#)）
 - 小規模方法論（F-CDM-SSC-Subm）（EB34 報告書 [Annex11](#)）
 - 新規小規模方法論提案様式（F-CDM-SSC-NM）（EB34 報告書 [Annex12](#)）
 - 新規小規模方法論提案に対してのパブリックコメント様式（F-CDM-SSC-NMpu）（EB34 報

⁸ このメンバー追加により、MP は 15 名体制から 16 名体制となる。

⁹ 現在 MP に所属するメンバー 1 名が近日中に辞任することが予定されていることから、今回の新規追加メンバー公募への応募者の中から de La Torre 氏を交代メンバーとして選出した。

告書 [Annex13](#))

- 新規小規模方法論専門家様式 (F-CDM-SSC-NMex) (EB34 報告書 [Annex14](#))

<スケジュール>

- ・次回、第 12 回小規模 CDM ワーキンググループ (SSC WG12) 開催スケジュール：2007 年 9 月 19 日～21 日

3. (d) CDM プロジェクトの登録に関する事項

<プロジェクト登録数>

- ・2007 年 9 月 14 日現在、785 のプロジェクトが登録されている。¹⁰

<プロジェクト登録>

<登録申請・レビュー要請案件 (4 桁の数値はプロジェクト参照番号) []内は担当 DOE>

- ・登録承認¹¹：11 件
 - “Chilatan Hydroelectric Project” (0785) (メキシコ) [DNV]
 - “Jiangsu Qidong 91.5 MW Wind Power Project” (0905) (中国／スペイン) [DNV]
 - “Partial substitution of fossil fuels with biomass in cement manufacture” (0876) (アルゼンチン／スペイン) [DNV]
 - “GEEA-SBS Biomass Treatment Project in Alegrete, Rio Grande do Sul, Brazil” (1092) (ブラジル／日本 (三菱 UFJ 証券)) [DNV]
 - “Manasi River Stage I Hydropower Project of Hongshanzui Hydropower Plant, Xinjiang Tianfu Thermoelectric Co.,Ltd.” (1103) (中国／日本 (東京電力)) [TÜV-SÜD]
 - “SSML-Simbhaoli Biomass Power Project” (1112) (インド／英国) [BVC]
 - “10MW Waste Heat Recovery based Captive Power Project at Vikash Metal and Power Limited” (1149) (インド) [SGS]
 - “Fuel Switch at BSM sugar mills”(1022) (メキシコ) [DNV]
 - “Phu Khieo Bio-Energy Cogeneration project (PKBC)”(1024) (タイ) [DNV]
 - “Central Izalco Cogeneration Project”(1033) (エルサルバドル) [DNV]
 - “19.27 MW Grid connected wind electricity generation project by KPR Mills in Tamil Nadu”(1042) (インド) [BVC]
- ・条件付登録承認：10 件
 - “Hangyeong second phase SS-wind power Project” (1000) (韓国) [KEMCO]
(条件内容：レビュー要請時に提供された 2001 年 11 月 11 日以降の正味現在価値 (NPV) 算定から助成金を除いた形での政策実施に関する更なる証拠や反映させた修正版 PDD に対応する修正版有効化審査報告書の再提出が必要)
 - “Inversiones Hondurenas Cogeneration Project” (1034) (ホンジュラス) [DNV]
(条件内容：レビュー要請時に提出されたバイオマス残渣を腐敗状態にさせないという確認を反映させた修正版 PDD 及び有効化審査報告書の再提出が必要)

¹⁰ CDM プロジェクトの登録状況については UNFCCC ウェブサイト (<http://cdm.unfccc.int/Projects/>) にて閲覧可能。

¹¹ 前回 EB33 にてレビュー実施決定された、“BCML Haidergath Bagasse Co-generation Project (India)” (1069)は、登録申請が撤回 (withdrawn) されたため、今回 EB にて審議されなかった。

- “Yunnan Yingjiang Nandihe Hydro Power Project” (1074) (中国／オランダ) [DNV]
(条件内容：PDD のセクション B5 (追加性の評価・証明) に関する記述、及び正確な現時点の内部収益率 (IRR) の計算を盛り込んだ修正版 PDD 及び有効化審査報告書の再提出が必要)
 - “Guangzhou Xingfeng Landfill Gas Recovery and Electricity Generation CDM Project” (1075) (中国／英国) [JCI]
(条件内容：レビュー要請時の追加情報及び修正を反映させた修正版 PDD 及び有効化審査報告書の再提出が必要)
 - “GEEA Biomass 5 MW Power Plant Project” (1089) (ブラジル／日本 [三菱 UFJ 証券]) [DNV]
(条件内容：以下の事項の修正変更を反映させた修正版 PDD 及び有効化審査報告書の再提出が必要。レビュー要請時の追加情報、AMS III.E.ver10 のモニタリング基準に関連する事項、投資分析に用いたベンチマークレートと入力したデータの有効化、正しいクレジット期間の開始日)
 - “Bandar Baru Seriting Biomass Project” (1091) (マレーシア／英国) [DNV]
(条件内容：以下の事項の修正変更を反映させた修正版 PDD 及び有効化審査報告書の再提出が必要。レビュー要請時のプロジェクト参加者から出されたコメント、年間のバイオマスの使用量、PDD 中のリーケージ見積箇所の修正)
 - “Project for the catalytic reduction of N2O emissions with secondary catalyst inside the ammonia oxidation reactors of the NAN1 and NAN2 nitric acid plants at Abonos Colombianos SA (“Abocol”), Colombia” (1119) (コロンビア／ドイツ) [TÜV-SÜD]
(条件内容：以下の事項の修正変更を反映させた修正版 PDD 及び有効化審査報告書の再提出が必要。NAN2 のベースラインパラメーター決定に用いたデータ源と仮説、有効化審査中の NAN2 のベースライン排出要因の再算定、ベースライン排出要因を用いた個別プラントからのプロジェクト排出削減の算定)
 - “Rice husk based cogeneration plant (5 MW) at Shibzada Ajit Singh Nagar District, Punjab by M/s Nahar Industrial Enterprises limited” (1130) (インド) [DNV]
(条件内容：レビュー要請時にプロジェクト参加者より提出された修正版 PDD に対応させた修正版有効化審査報告書の再提出が必要。)
 - “Jiangxi Fengcheng Mining Administration CMM Utilization Project” (1135) (中国／オランダ) [DNV]
(条件内容：DOE によるベンチマーク比率及び有効化審査中の外部データ評価がどのような形で適切であると確認されたかを反映した修正版有効化審査報告書の再提出が必要)
 - “7.25 MW wind energy project of Aruppukottai Sri Jayavilas Ltd., Tamilnadu, India” (1137) (インド) [SGS]
(条件内容：以下の事項の修正変更を反映させた修正版 PDD 及び有効化審査報告書の再提出が必要。レビュー要請時に提供された再生可能技術による電力生産量算定説明と図表、各風力タービンメーカーからの各測定値と相互連結ポイントの電力の照合検査)
- ・レビュー実施決定：30 件
- “Power generation from waste heat at NSIL” (0997) (インド) [SGS] (EB34 報告書 [Annex15](#))
 - “Ramgarh Chini Mills RE project” (1003) (インド) [DNV] (EB34 報告書 [Annex16](#))
 - “Compañia Azucarera Hondureña S.A. cogeneration project” (1035) (ホンジュラス／日本) [DNV] (EB34 報告書 [Annex17](#))
 - “Chumbagua Cogeneration project” (1043) (ホンジュラス／日本) [DNV] (EB34 報告書 [Annex18](#))

- “Ingenio Magdalena S.A. cogeneration project” (1044) (グアテマラ) [DNV] (EB34 報告書 [Annex19](#))
- “La Grecia Cogeneration Project” (1056) (ホンジュラス/日本) [DNV] (EB34 報告書 [Annex20](#))
- “Cargill Uberlândia Biomass Residues Fuel Switch Project” (1065) (ブラジル/スイス、英国) [DNV] (EB34 報告書 [Annex21](#))
- “SRBSL –Waste Heat Recovery based Captive Power Project” (1076) (インド) [SGS] (EB34 報告書 [Annex22](#))
- “Montecristo Hydroelectric Project” (1077) (グアテマラ) [AENOR] (EB34 報告書 [Annex23](#))
- “Optimal utilization of clinker by increasing the additives in cement production at Holcim Lanka Ltd (HLL), Sri Lanka” (1084) (スリランカ/スイス) [DNV] (EB34 報告書 [Annex24](#))
- “Emission reduction through partial substitution of fossil fuel with alternative fuels like agricultural byproducts & Municipal Solid Waste (MSW) in the manufacturing of portland cement at Vikram Cement (VC), Neemuch (MP), India” (1085) (インド) [RW TÜV] (EB34 報告書 [Annex25](#))
- “BHL Bilai Project” (1086) (インド/英国) [DNV] (EB34 報告書 [Annex26](#))
- “Ancon –EcoMathan Landfill Gas Project” (1104) (ペルー/英国) [DNV] (EB34 報告書 [Annex27](#))
- “M/S. Kothari Sugars and Chemicals Ltd (KSCL)’s Bagasse Based Co-generation Project, at Perambalur district, Tamil Nadu, India” (1109) (インド/英国) [DNV] (EB34 報告書 [Annex28](#))
- “4MW Waste Heat Recovery based power project by GRSPL, India” (1114) (インド) [DNV] (EB34 報告書 [Annex29](#))
- “75MW wind power project in Maharashtra by Essel Mining Industries Limited” (1115) (インド) [DNV] (EB34 報告書 [Annex30](#))
- “Jiaozishan Landfill Gas Recovery and Utilization Project” (1120) (中国/英国) [SGS] (EB34 報告書 [Annex31](#))
- “Ciudad Juarez Landfill Gas to Energy Project” (1123) (メキシコ) [TÜV-SÜD] (EB34 報告書 [Annex32](#))
- “MSPPL WHR based power project at Chattisgarh, India” (1140) (インド) [DNV] (EB34 報告書 [Annex33](#))
- “Priyata Intercontinental Wind Power Project, India” (1142) (インド) [SGS] (EB34 報告書 [Annex34](#))
- “AWMS Methane Recovery Project BR06-S-19, Goias, Brazil” (1154) (ブラジル) [TÜV-SÜD] (EB34 報告書 [Annex35](#))
- “AWMS Methane Recovery Project BR06-S-20, Minas Gerais, Brazil” (1157) (ブラジル) [TÜV-SÜD] (EB34 報告書 [Annex36](#))
- “AWMS Methane Recovery Project BR06-S-21, Goias, Brazil” (1158) (ブラジル) [TÜV-SÜD] (EB34 報告書 [Annex37](#))
- “AWMS Methane Recovery Project BR06-S-24, Mato Grosso and Mato Grosso do Sul, Brazil” (1159) (ブラジル) [TÜV-SÜD] (EB34 報告書 [Annex38](#))
- “AWMS Methane Recovery Project BR06-S-25, Minas Gerais, Brazil” (1160) (ブラジル) [TÜV-SÜD] (EB34 報告書 [Annex39](#))
- “AWMS Methane Recovery Project BR06-S-26, Minas Gerais, Brazil” (1161) (ブラジル) [TÜV-SÜD] (EB34 報告書 [Annex40](#))
- “AWMS Methane Recovery Project BR06-S-27, Goias, Brazil” (1162) (ブラジル) [TÜV-SÜD] (EB34 報告書 [Annex41](#))
- “AWMS Methane Recovery Project BR06-S-28, Santa Catarina, Brazil” (1163) (ブラジル)

[TÜV-SÜD] (EB34 報告書 [Annex42](#))

- “AWMS Methane Recovery Project BR06-S-29, Sao Paulo, Brazil” (1164) (ブラジル) [TÜV-SÜD] (EB34 報告書 [Annex43](#))
- “Renewable biomass residue based steam generation at Arvind Mills, Santej” (1217) (インド) [SGS] (EB34 報告書 [Annex44](#))

・登録不承認（レビュー実施の結果）：10 件

- “Pão de Açúcar – Demand side electricity management – PDD 7”(0988) (ブラジル) [DNV]
- “Kunak Bio Energy Project”(1014) (マレーシア) [DNV]
- “Pão de Açúcar – Demand side electricity management – PDD 3”(1023) (ブラジル) [DNV]
- “Pão de Açúcar – Demand side electricity management – PDD 2”(1030) (ブラジル) [DNV]
- “Eliane Natural Gas fuel switch project”(1041) (ブラジル) [DNV]
- “Pão de Açúcar – Demand side electricity management – PDD 4”(1050) (ブラジル) [DNV]
- “Pão de Açúcar – Demand side electricity management – PDD 1”(1055) (ブラジル) [DNV]
- “Pão de Açúcar – Demand side electricity management – PDD 6”(1057) (ブラジル) [DNV]
- “Pão de Açúcar – Demand side electricity management – PDD 8”(1058) (ブラジル) [DNV]
- “Pão de Açúcar – Demand side electricity management – PDD 5”(1060) (ブラジル) [DNV]

<ガイダンスに関する事項>

- ・事務局作成の現行の「逸脱要請手続（Procedures for requests for deviation）」改訂案を次々回 EB35 (2007 年 11 月) にて検討することとなった。

3. (e) CER 発行及び CDM 登録簿（レジストリ）に関する事項

<CER 発行数>

- ・2007 年 9 月 14 日現在、80,216,183CERs が発行されている。¹²

<CER 発行要請レビュー>

<レビュー要請案件（4 桁の数值はプロジェクト参照番号） []内は担当 DOE>

- ・発行承認：11 件
 - “Catalytic N2O destruction project in the tail gas of the Nitric Acid Plant of Abu Qir Fertilizer Co.”(0490) (エジプト/オーストリア、ドイツ) [DNV]
 - “Methane capture and combustion from swine manure treatment for Corneche and Los Guindos”(0031) (チリ/カナダ、日本、英国) [TÜV-SÜD]
 - “Methane capture and combustion from swine manure treatment for Peralillo”(0032) (チリ/カナダ、日本、英国) [TÜV-SÜD]
 - “Vaturu and Wainikasou Hydro Projects”(0089) (フィジー/英国) [TÜV-SÜD]
 - “N2O Emission Reduction in Onsan, Republic of Korea”(0099) (韓国/日本、オランダ、英国、フランス) [TÜV-SÜD]
 - “Methane Extraction and Fuel Conservation Project at Tamil Nadu Newsprint and Paper Limited (TNPL), Kagathipuram, Karur District, Tamil Nadu”(0124) (インド/オランダ) [SGS]
 - “Jalles Machado Bagasse Cogeneration Project (JMBCP)”(0187) (ブラジル/オランダ) [BVC]
 - “Lagas Methane Avoidance Project”(0268) (ブラジル/日本) [DNV]

¹² CER 発行状況については UNFCCC ウェブサイト (<http://cdm.unfccc.int/Issuance/>) にて閲覧可能。

- “LDEO Biomass Steam and Power Plant in Malaysia”(0395) (マレーシア/カナダ) [DNV]
 - “SEO Biomass Steam and Power Plant in Malaysia”(0402) (マレーシア/カナダ) [DNV]
 - “VGL –Waste Heat based 4 MW Captive Power Project at Raipur”(0432) (インド) [SGS]
 - “Água Doce Wind Power Generation Project”(0575) (ブラジル) [SGS]
 - “Central Energética do Rio Pardo Cogeneration Project (CERPA)”(0209) (ブラジル/オランダ) [RWTÜV]
- ・レビュー実施決定：7件
 - “Methane capture and combustion from swine manure treatment for Pocillas and La Estrella”(0033) (チリ/カナダ、日本、英国) [TÜV-SÜD] (EB34 報告書 [Annex45](#))
 - “Cuyamapa Hydroelectric Project”(0045) (ホンジュラス) [DNV] (EB34 報告書 [Annex46](#))
 - “Nagda Hills Wind Energy Project (India)”(0112) (インド) [RWTÜV] (EB34 報告書 [Annex47](#))
 - “Sahabat Empty Fruit Bunch Biomass Project”(0288) (マレーシア/英国) [SGS] (EB34 報告書 [Annex48](#))
 - “Advanced swine manure treatment in Maitenlahue and La Manga”(0458) (チリ/英国) [TÜV-SÜD] (EB34 報告書 [Annex49](#))
 - “Grasim Cement: Energy efficiency by up-gradation of clinker cooler in cement manufacturing”(0858) (インド) [SGS] (EB34 報告書 [Annex50](#))
 - “Aços Villares Natural gas fuel switch project”(1037) (ブラジル/英国) [DNV] (EB34 報告書 [Annex51](#))

< CDM 登録簿に関する事項 >

- ・2007年8月末現在の発行済み CER 及び CDM 登録簿に関する事項について、事務局より下記の内容の報告がなされた。
 - ・発行済み CER について (計 76,068,517CERs)
 - 52,686,445CERs (69%) が附属書 I 国用暫定口座 (temporary holding accounts) へ移転済み
 - 21,279,366CERs (28%) が CDM 理事会用保留口座 (pending accounts) へ移転済み
 - 581,341CERs (1%) が非附属書 I 国用保有口座 (holding accounts) へ移転済み
 - ・ CDM 登録簿の保有口座数
 - 非附属書 I 国用保有口座 (holding accounts) : 20 口座
 - 附属書 I 国用暫定口座 (temporary holding accounts) : 78 口座
 - ・ CDM 登録簿と国際取引ログ (ITL) との接続に関し、初期化プロセスが9月第3週目に完了する見込み。10月中旬にも新しいバージョンの CDM 登録簿の運用が開始される予定。(口座保有者がオンラインでの移転要請や取引明細書の確認等が可能となる。)

4. CDM 管理計画及び予算に関する事項

< CDM 管理計画 >

- ・理事会は、CDM の効率性、費用対効果、透明性、一貫性のある機能を確保し、引き続き CDM 管理計画 (CDM MAP) の見直しや調整を必要に応じて行っていくことに合意した。また、次回 EB35 にて、(2009年の活動計画予測を含む) 2008年活動計画が EB に提出されることが事務局より発表

された。

<予算>

- ・前回 EB33 (7月) 開催から、事務局の運営準備金として、4,719,541 百万米ドルの追加収入がなされた。(追加収入の内訳、登録費：2,353,595 百万米ドル、分担金 (SOP)：2,352,253 百万米ドル、方法論登録費：13,693 百万米ドル)
(予算状況については、EB34 報告書 [Annex52](#) を参照のこと。)

<事務局職員>

- ・また、予算の報告と合わせ、事務局からは職員の採用状況 (事務局内の CDM 部門にて、現時点で 71 人の職員が勤務し、13 人の新規採用を進めている (短期契約含む) 等) についても口頭報告がなされた。

5. その他

5. (a) プロジェクトの地域分布

- ・理事会は、特にアフリカ、小島嶼諸国開発途上国 (SIDS)、後発開発途上国 (LDCs) で実行可能な CDM プロジェクトを増やすため、プロジェクトや方法論の分析を行った事務局作成の文書を留意した。引き続き COP/MOP3 へのレポートに盛り込むべく、次回 EB35 にて更に検討を行うこととなった。
- ・プロジェクトの地域偏在解消のためのマイクロファイナンスに関して、有用性を確認し、次回 EB35 にて詳細を検討することとなった。また、Stehr 議長より、デンマーク政府がプロジェクトの地域偏在解消のための取り組み (マイクロファイナンス) に対し、資金面での支援を検討していることが発表された。
- ・事務局と UNEP RISOE センターとが共同して開発を行った「CDM バザール (www.cdmbazaar.net)」が 9 月 5 日に公開となり、公開 1 週間で 300 を超える機関・組織・企業の登録がなされたことが事務局より報告された。理事からは、投稿に関して、掲載前の品質管理の有無について質問が寄せられた。これに対し、投稿毎にチェックは行っていない、投稿された情報に基づき発生した不利益等について CDM バザール側では一切関知しないもの、問題等があれば投稿の削除等の適切な措置を行う、との回答が事務局よりなされた。

5. (b) DNA との関係

- ・第 3 回 DNA フォーラムをエチオピア・アジスアベバ (2007 年 10 月 4 日～6 日) にて、第 4 回 DNA フォーラムをインドネシア・バリ (2007 年 11 月 29 日～30 日) にて開催することが発表され、それに向けての準備を進めていることが事務局より報告された。

5. (c) DOE/AE との関係

- ・理事会は、DOE/AE コーディネーションフォーラム議長である Werner Betzenbichler 氏 (TÜV SÜD) を招聘し、DOE/AE の見解等について以下の内容の口頭報告を受けた。
 - DNA からの承認レター発行段階での有効化審査中のプロジェクト名の変更は、状況にもよるが、混乱による手続きの遅れ等が生じる可能性がある。
 - 事務局による完全性チェック (completeness check) ガイダンス、特にモニタリングレポート公開に関する事項の明確化について。
 - レビュー実施が決定された登録要請案件に関して、レビューの結果、何の変更もなく登録された案件のクレジット期間開始日の延期に関する取り扱いについて。
 - いくつかの DNA が限定的な承認レターを発行していることや、承認レター発行遅延によって、承認済み方法論や PDD 等各種様式の修正変更に対応できず、プロジェクト登録要請が事実上阻まれている事態について、事態打開のための理事会によるサポートを要請。
- ・Betzenbichler 氏の報告を受け、「プロジェクト名は登録完了まで変更せず、同じ名前で手続きを進めてほしい」(Stehr 議長) 等のコメントが理事からなされた。

5. (d) 利害関係者・各国・NGO との関係

- ・9月14日 (EB34 最終日) 午後、理事会とオブザーバーとの間で質疑応答セッションが行われた。
- ・次回 EB35 オブザーバー出席申込締切：2007年9月26日 (17:00 GMT)

5. (e) その他

<パブリックコメント>

- ・DOE/AE、他一般から以下のコメントが理事会宛に送付され、非公開討議にて取り上げられた。(公開討議では審議せず。)
- (a) A.K. Sachdeva 氏 (NHPC Ltd. (インド)) :
特に水力発電産業における CDM 手続きの改善に関する提案 (2007年7月5日受領)
- (b) Eduardo Garcia Molina 氏 (Gamesa Energia S.A.) :
Bii Nee Stipa プロジェクトの担当者及びデザインの変更について (2007年7月10日受領)
- (c) Francesca Maria Cerchia 氏 (Econergy, SP (ブラジル)) :
プロジェクト参加者が直面している CDM プロジェクトの開発及び CDM 手続きに関する明確化要請について (2007年7月20日受領)
- (d) Gisela Ulloa 氏 (ボリビア CDM オフィス (ボリビア開発企画省)) :
San Ramón Rural Electrification Project (0964) に対する登録不承認判定について (2007年7月31日受領)
- (e) Dr. N.B Viyas 氏 (Godrej Agrovet) :
方法論 NM0214 (Green House Gas (GHG) emissions reduction by use of \hat{A} 'Nimin- a natural nitrification inhibitor \hat{A} ' with Urea in cropland) の不承認判定について (2007年8月16日受領)
- (f) Pauline Heck Bellaver 氏 (Sadia Institute) :
ブラジルの CDM Sadia Institute Project に関する事項について (2007年8月17日受領)

- (g) Ian D. Nelson 氏 (Metrogas) :
登録済み CDM プロジェクトの変更に関する事項について (2007 年 8 月 22 日受領)
- (h) Alexei Sankovski 氏 (ICF International) :
NM0202 (AzDRES Power Plant Energy Efficiency and Change in Fuel mix) の承認プロセスに関する事項について (2007 年 8 月 24 日受領)
- (i) Umesh Srivastava 氏 (Vikram Cement – unit of Grasim Insudtires Ltd) :
登録不承認プロジェクト 0859 (Vikram Cement: Energy efficiency by upgradation of clinker cooler in cement manufacturing) に関する事項について (2007 年 8 月 24 日受領)
- (j) B.B. Mehta 氏 (Dalmia Sugars Limited (インド)) :
登録不承認プロジェクト 0990 (Dalmia Sugars Limited Jawaharpur RE project) 及び 0977 (Dalmia Sugars Limited Nigohi project) に関する事項について (2007 年 8 月 27 日受領)

<次回理事会開催スケジュール>

- ・次回 EB35 は 2007 年 10 月 17 日～19 日に、ドイツ・ボン (UNFCCC 事務局) にて開催の予定。(EB35 議題案 : EB34 報告書 [Annex54](#)) (非公開討議 : 10 月 17 日、公開討議 : 10 月 18 日～19 日)

<2007 年度～2008 年度理事会、パネル・ワーキンググループ開催スケジュール>

- ・2008 年の理事会開催スケジュールについて合意した。(EB34 報告書 [Annex53](#))
- ・2007 年度～2008 年度の理事会開催スケジュールは以下の通り。

EB	日程 (2007 年)	場所・備考
EB35	10 月 17 日～19 日	ボン (UNFCCC 事務局)
EB36	11 月 28 日～30 日 (2008 年)	インドネシア・バリ <COP/MOP3 との共催>
EB37	1 月 30 日～2 月 1 日	ボン (UNFCCC 事務局)
EB38	3 月 12 日～14 日	ボン (UNFCCC 事務局)
EB39	5 月 12 日～14 日	ボン (UNFCCC 事務局) <SB との共催>
EB40	6 月 14 日～16 日	ボン (UNFCCC 事務局)
EB41	7 月 30 日～8 月 1 日	ボン (UNFCCC 事務局)
EB42	9 月 24 日～26 日	ボン (UNFCCC 事務局)
EB43	10 月 22 日～24 日	ボン (UNFCCC 事務局)
EB44	11 月 26 日～28 日	未定 <COP/MOP4 との共催>

- ・2007 年度～2008 年度の方法論パネル (MP)、植林・再植林ワーキンググループ (AR WG)、小規模ワーキンググループ (SSC WG)、認定パネル (AP) の開催スケジュールは以下の通り。

MP	日程 (2007 年)	場所・備考
MP29	9 月 24 日～28 日	ボン (第 19 ラウンド提出締切 : 2007 年 6 月 1 日)
MP30	11 月 12 日～16 日 (2008 年)	ボン (第 20 ラウンド提出締切 : 2007 年 9 月 3 日)
MP31	2 月 5 日～8 日	ボン (第 21 ラウンド提出締切 : 2007 年 12 月 3 日)
MP32	4 月 7 日～11 日	ボン
MP33	6 月 23 日～27 日	ボン

MP34 8月25日～29日 ボン
MP35 11月3日～7日 ボン

AR WG	日程 (2007年)	場所・備考
ARWG16	9月19日～21日	ボン (第14ラウンド提出締切: 2007年6月29日)
ARWG17	未定 (2008年)	ボン (第15ラウンド提出締切: 2007年10月1日)
ARWG18	2月11日～13日	ボン
ARWG19	4月14日～16日	ボン
ARWG20	6月18日～20日	ボン
ARWG21	9月1日～3日	ボン
ARWG22	11月10日～12日	ボン

SSC WG	日程 (2007年)	場所・備考
SSCWG12	9月19日～21日	ボン
SSCWG13	11月7日～9日 (2008年)	ボン
SSCWG14	2月11日～13日	ボン
SSCWG15	4月14日～16日	ボン
SSCWG16	6月18日～20日	ボン
SSCWG17	9月1日～3日	ボン
SSCWG18	11月10日～12日	ボン

AP	日程 (2007年)	場所・備考
AP31	8月22日～24日	ボン
AP32	11月7日～9日 (2008年)	ボン
AP33	2月20日～22日	ボン
AP34	4月14日～16日	ボン
AP35	5月21日～23日	ボン
AP36	7月14日～16日	ボン
AP37	8月27日～29日	ボン
AP38	9月30日～10月2日	ボン
AP39	11月5日～7日	ボン

6. 閉会

QA セッション

・9月14日 (EB34 最終日) 午後、理事会とオブザーバーとの間で質疑応答セッションが行われた。
主な討議内容は以下の通り。

Q1 (プロジェクト参加者 (非附属書I国))

登録申請中のプロジェクトに対して、レビューが実施されるケースが最近増えているが、プロジェクト参加者から意見を聴取する機会を与えて欲しい。当事者から意見を聴取した後に判定を下して欲しい。プロジェクト参加者としては同じ過ちを繰り返さないためにも、またレビューケースの増加を防ぐためにも、どこに問題があるのかはつきりさせて欲しい。

A1 (Stehr 理事/EB 議長)

指摘された件について検討したい。

Q2 (世銀)

最近の EB レポートは情報量に乏しいものとなっている。レポート上での更なる情報提供を要望。

A2 (Stehr 理事/EB 議長)

外部とのコミュニケーションは重要だと考えており、改善すべき点は改善していくよう検討したい。

Q3 (IETA)

プログラム CDM の手続きにおいて、「調整・管理主体」が窓口となり、発行 CER の受領を行うこととなっているが、CER のバイヤーがプログラム CDM から CER を取得する際の手続きについて懸念を抱いており、手続きを改正する必要があるように感じる。改正案について後日提案させて頂きたい。

A3 (Stehr 理事/EB 議長)

プログラム CDM については、まだ新しいものであり、改善の余地がある。よりよいシステムにするためにも、積極的に提案をして頂きたい。

以上

(文責：家本 了誌)